



友われら 72

甲府市立北中学校
学校だより No. 6
2019年 9月 26日
文責 数野 保秋

-全国学力・学習状況調査の結果から- ～課題の改善に取り組みます！～

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学校3年生を対象に4月18日(木)に実施されました。

この調査は、「教科に関する調査(国語・数学・英語)」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の2種類からなっており、「教科に関する調査」は、昨年度までは「知識」に関する問題(A問題)と「活用」に関する問題(B問題)に分かれていましたが、本年度からは一緒になっています。

そして、この調査結果を基に、本校生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることで、今後の指導の改善に役立てることが目的です。

本校では、7月末に文部科学省より結果が送付されてきて以来、各教科担当を中心に分析を行ってきましたが、このたび分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

今後、3年生には個人票を返却し、自分のつまずきを知り、その改善に取り組むように指導します。また、学校としても、すでに取り組んでいる教科もありますが、分析で明らかになった課題を確認する中で、3年生はもとより全学年で授業や指導のあり方を見直して、具体的な取り組みを行っていきます。

学力調査の分析結果の概要

<参考> 県・国の平均正答率

	国語	数学	英語
山梨県	75	60	55
全国	72.8	59.8	56.0

1. 本校の状況

国語、数学及び英語のすべての教科において、県及び全国の平均と比較して±5%以内であり、全国と同等の結果でした。ただし、個々の分野や問題については、学校全体として課題があります。

また、生徒一人一人の課題もそれぞれあるため、今後も指導が必要であると考えています。

2. 各教科の結果から

【国語】

成果

- ① 昨年度と問題が変わった(知識・活用が一本化された)ので、一概に比較はできないが、昨年度のように、県との正答率差が10pt以上、下回るものはなかった。無解答率も、昨年度、差が10pt以上だったものが21問中7問(内4問は20%以上)あり、1問以外全設問で県を上回っていたが、本年度は10pt以上のものが10問中2問(20%以上は0)となった。ただし、国・県と比較するとまだ多い。

課題と対応策

- ① 「話すこと・聞くこと」の領域において、平均正答率が67.4%で、国(70.2%)と比較して2.8pt下回っている。対象設問の出題趣旨は2一「話合いの話題や方向を捉える」(正答率79.1% 差-1.3) 2二「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」(正答率67% 差-2.7) 2三「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」(正答率56% 差-4.4)となる。
- ⇒ 意見と根拠を書き分けることをさらに意識させたい。また、小グループを活用して、交流場면을授業の中に増やしていく取り組みを行う。その際、自分の考えを持つことを前提とさせたい。その上で、交流を通して自分の考えの変容を自己評価させる場面を設定していきたい。司会・記録の係も実際に体験させることで役割のポイントを理解させたい。交流場面を毎時間授業に組み込むことは実際問題としては困難が伴う。しかし、話す・聞く能力を育てるためには訓練が不可欠である。国語の授業だけでなく、あらゆる場面が学びの機会である。学習グループとして共通して取り組めると有効だと思う。(実際4人グループを様々な教科で活用している例は多い)教科横断的な取り組みも考えたい。また、今年度は道徳



の時間に話し合い活動が盛り込まれている。話し合い活動の基本的なことを国語科で押さえ、道徳や特別活動などの実際の場面で鍛えていけるように取り組んでいきたい。

- ② 無解答率が高いことがまだまだ課題である。10%を超えたものが2問ある。両方とも記述式問題で（2三 12.1% 3二 14.3%）、記述式問題は書くことの領域だけでなく出題される。正答率も低かった2三の解答類型を精査すると、① 話し合いの流れを踏まえ「どうするか決まっていないうこと」とは何かを明確にして書いている ② ①で示した「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を書いている ③ 実際に話すように書いている という正答の条件のうち、条件①③は満たし、条件②を満たさないで解答した生徒が11%いる。

⇒ 設問をよく読み、何を要求されているかを確認することが必要である。問題文に線を引くなど、チェックしながら解答する習慣をつけさせるとともに、部分点を与えるなどして、あきらめないで最後まで課題に取り組む気持ちを育てたい。また、いろいろな場面を想定する記述問題（話し合い・新聞記事・図表やグラフの読み取りなど）にも取り組ませたい。

問題文をしっかり読み取ることは、選択問題においても同様の課題である。選択肢の内容が理解できていなかったり、一部だけ読んで早合点していたりすると思われる解答がある。例えば、1二「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」では、「適切なものを全て選ぶ」とあるが、適切に解答していないと考えられる。



【数学】

成果

- ① 学習指導要領の領域【図形】について

評価の観点《知識・理解》の問題である「平行移動の意味の理解」や「反例の意味の理解」については、全国並みの正答率である。

- ② 学習指導要領の領域【資料の活用】について

評価の観点《技能》の問題である「確率を求める」技能が良好である。また、《知識・理解》の問題である「用いるべき代表値の判断」の知識・理解が良好傾向にある。

課題と対応策

- ① 学習指導要領の領域【図形】について

《知識・理解》《技能》については、「最頻値を読み取る」「証明の根拠となる三角形の合同条件の理解」についての定着に課題が残った。

- ② 学習指導要領の領域【資料の活用】について

評価の観点《知識・理解》《技能》については、「最頻値を読み取る」「諸資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」記述について課題が見られた。

⇒ ①②に共通して、同一領域、同一評価の観点においても、問題によっては成果と課題に分かれてくるため、授業内で確実な定着を図れるような課題提示等の工夫を行っていく必要がある。

- ③ 「記述式」の問題形式における無解答の割合が課題である。

⇒ 無解答率が全国よりも高いものが見られるが、全国と同程度とみなせるものも多い。一方、全国と本校の平均正答率を比較した場合、ほぼ同等と捉えられる。以上より、本校では、知識・理解が乏しく、数学的な見方や考え方まで至らない生徒がいる反面、進んだ考え方のできる生徒も多いことが分かる。学力の二極化を縮められるように、教師と生徒、または生徒同士による双方向でのまとめと振り返りを継続して行っていきたい。また、口頭や記述による言語化を図る取り組みを強化していききたい。



【英語】

成果

- ① 「学習指導要領の領域」においては、「聞くこと」の領域で正答率が高く、英語を聞き取る力は高いように感じられる。今後も授業内においてもできるだけ英語に触れる時間を多くできるように、丁寧に取り組んでいきたい。

- ② 「読むこと」の領域においては、英文を読み、その内容を読み取ることに對する問題での正答率が高いものもある。問題文が長くなるにつれて、正答率が下がってしまうので、文章の大意を読み取る力をより高められるようにしていく必要が感じられる。

- ③ 「話すこと」の領域においては、一問一答のような短答式の問題での正答率が高い。日常的なあいさつや天気、日付などを尋ねる活動の成果であると考えられる。今後も授業の導入部での英語のやりとりを大切にしていきたい。

課題と対応策

- ① 「学習指導要領の領域」においては、特に「書くこと」についての領域において課題が見られる。リスニング問題であつ

でも、聞き取った内容に対するアドバイスを「書く」となると、しっかりと文を書けなくなってしまう。また、長い英文を書くことに対しては特に課題が感じられる。

⇒ 口頭でのコミュニケーション活動を重視する中でも、書くことによる表現活動にも力を入れていく必要であると考えられる。また、入試でもまとまりのある文章を書くことが求められるので、今後も英作文を通しての表現活動にも力を入れていきたい。

② 「話すこと」の領域においては、即興的なやりとりに対して課題が見られる。

⇒ 英語学習において、聞くことやそれに応じて英語で文章を考えること、そして話すことという総合的な力が求められる分野であり、すぐに力を身につけるということは不可能な領域であるため、日常的に「聞くこと」や「書くこと」「読むこと」などを通して「話すこと」につなげる工夫を地道に行っていく必要が感じられる。

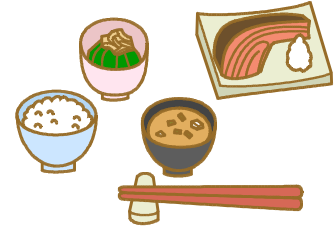
学習状況調査（質問紙調査）の分析結果の概要

1. 本校の状況

今回の調査では、多くの項目で肯定的な回答が高い傾向にあり、質問項目の3分の2が国の平均を上回っていました。本校生徒のよさを改めて確認できました。これからも、そのよさをますます伸ばしていくことができるように支援していきたいと思えます。また、課題については学習への取り組みが中心です。もう一度自分の取り組みを見直し、自ら学ぶ気持ちを育てていきたいと思えます。

□肯定的回答が非常に高い（90%以上）質問項目

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- 学校の規則を守っている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたい。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



□【生活習慣・学習習慣】で全国平均を上回る（5pt以上）質問項目

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。（+15.1pt）
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
- 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。
- 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。

□【教科学習】で全国平均を上回る（5pt以上）質問項目

- 国語の授業の内容はよく分かる。
- 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている。
- 英語の勉強は好きである。
- 英語の授業の内容はよく分かる。
- 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。

■肯定的回答が低い（50%以下）質問項目

- ▼ 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ▼ 家で、平日2時間以上勉強している。
- ▼ 新聞を月に1回以上読んでいる。

■【生活習慣・学習習慣】で全国平均を下回る（5pt以上）質問項目

- ▼ 家で、平日1時間以上勉強している。

■【教科学習】で全国平均を下回る(5pt以上)質問項目

- ▼ 数学の勉強が好きである。
- ▼ 数学の勉強は大切だと思う。
- ▼ 数学の授業の内容はよく分かる。
- ▼ 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

2. 本校の主な課題

質問紙調査から伺われる課題については、次の2点が挙げられます。

(1) 家庭学習への取り組みが不十分

家庭での学習時間が不足しています。これは昨年度の3年生にも言えることであり、学校での働きかけや各家庭での支援などに併せて、なんとと言っても本人の自覚が大切です。ただし、「何を学習してよいのか分からない」ということにならないように、具体的にどのような学習をどのくらい行うことが必要なのか、今後も指導を続けていきます。また、家庭学習については、時間だけが大切なのではなく、集中して取り組むことでさらに効果が上がるはずです。

(2) 数学への苦手意識が強い

他教科に比べて、数学への苦手意識が強いようです。しかし、平均正答率では全国とほぼ同等の結果を残しています。たとえ苦手意識があっても自信を持って取り組めるように、授業や課題提示の工夫を行いながら指導を続けていきたいと思えます。



学校としての今後の取り組み

◇ 今回の調査では、国・数・英の3教科とも、中央値(データを小さい順に並べたとき中央に位置する値)が国・県と全く同じ値であったにもかかわらず、標準偏差(データの散らばりの度合い)は国や県の値よりいずれも大きくなりました。これは、各教科とも正答数の分布に偏りがある、すなわち2極化の傾向が強いことを意味しています。3年生と同日に実施した2年生対象の【山梨県学力把握調査】にも同じ傾向が見られます。また、無解答率も全47問中42問で国の平均より高くなっています。この結果を踏まえ、すべての生徒に基礎的な学力を身に付けさせていくこと、また、最後まであきらめずに解答しようとする意欲を育てることが本校の大きな課題であると考えます。その課題の克服のためには、各学年・各教科でさらなる授業改善を図ることが必要です。

具体的には次の①～⑥の項目に取り組んでいきます。ご家庭でのご理解・ご協力をお願いします。

- ① 各教科の授業の中で、今回の調査で課題の見られた領域や問題について、復習する機会を設けていきます。
- ② 家庭学習(時間と内容)が重要です。予習・復習を基本に、自主的な学習の取り組みを充実させるとともに、授業との関連を意識した課題を継続していきます。また、そのためにも各学期ごとに配付している【学習ガイダンス】と三者懇談等で示している【家庭学習の手引き】の一層の活用を図ります。
- ③ 基礎的・基本的な学習内容(国語の漢字や数学の計算、英単語など)について、様々な時間を活用し、小テストやドリル・学習プリントなどで繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着を図ります。朝の自主活動、放課後の補習体制などにも取り組んでいきます。
- ④ ティームティーチングの授業において、個に応じた指導の充実を図ります。
- ⑤ 授業のはじめには、何を学習するのか、何が分かればよいのかという「見通し」をしっかりと持たせ、授業の終わりには、何を学習したのか、何が分かったのかという「振り返り」を行うようにします。
- ⑥ 第2回定期テストで実施した「NO TV・ゲーム・スマホ DAY」を、第4回定期テスト(11月27日・28日)でも行い、家庭と一緒に集中して学習に取り組んでいきます。(学区の小学校も一緒にいきます。)

※ 先日の北陽祭には、多くの保護者の方々(延べ600人以上)のご来場をいただき、ありがとうございました。第3回定期テスト・新人戦・校長会テストなどを経て、11月1日(金)には合唱祭が開催されます。また、ご支援をお願いします。